

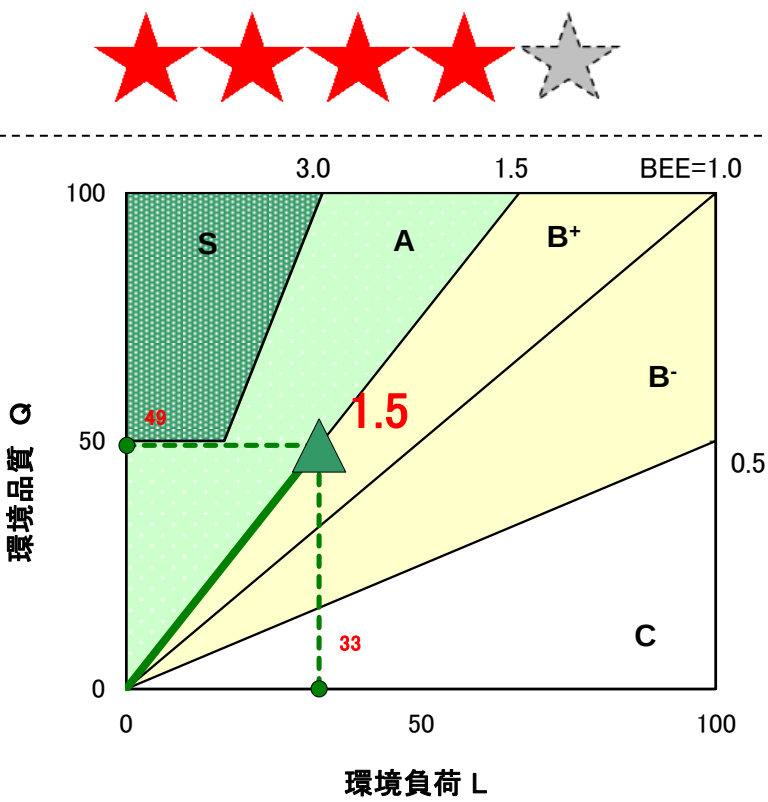
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	税大熊本研修所(28復旧)建築工事	階数	地上4階		
建設地	熊本県熊本市東区東本町16-1	構造	RC造		
用途地域	第二種住居専用地域	平均居住人員	100 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	事務所,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2017年1月27日		
敷地面積	8,017 m ²	作成者	松本拓也		
建築面積	1,673 m ²	確認日	2017年1月28日		
延床面積	4,730 m ²	確認者	定森淳一		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

★★★★★



BEE = 1.5

■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

☆☆☆☆☆

排出率

79%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



84

	評価点	■熊本県重点評価基準												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	91.7	<table><thead><tr><th>判定値(評価点)</th><th>ランク表示</th></tr></thead><tbody><tr><td>100点以上</td><td></td></tr><tr><td>80点以上100点未満</td><td></td></tr><tr><td>60点以上80点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点以上60点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点未満</td><td></td></tr></tbody></table>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	77.5													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0													
【重点事項4】 循環型社会の実現	86.2													

※評価点は、100点以上が推奨です。

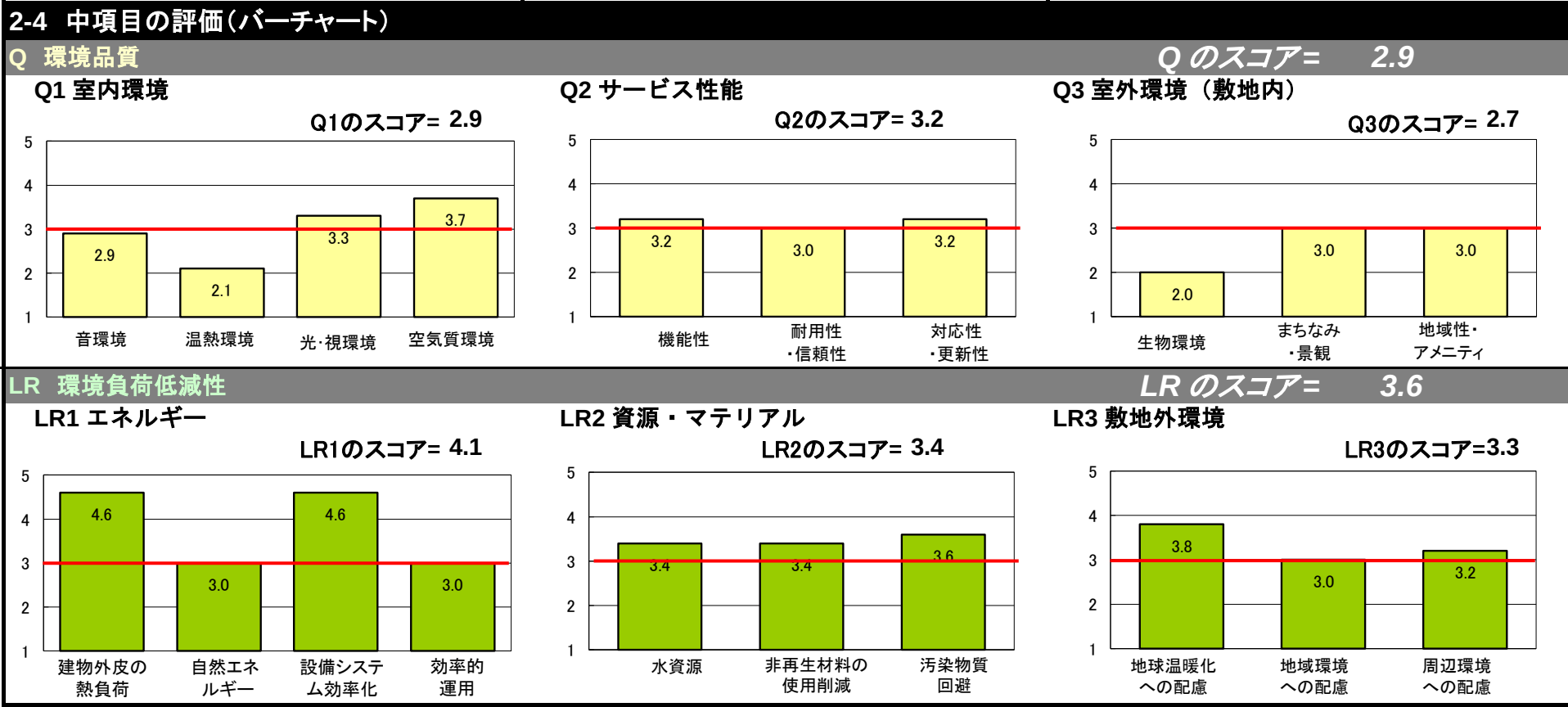
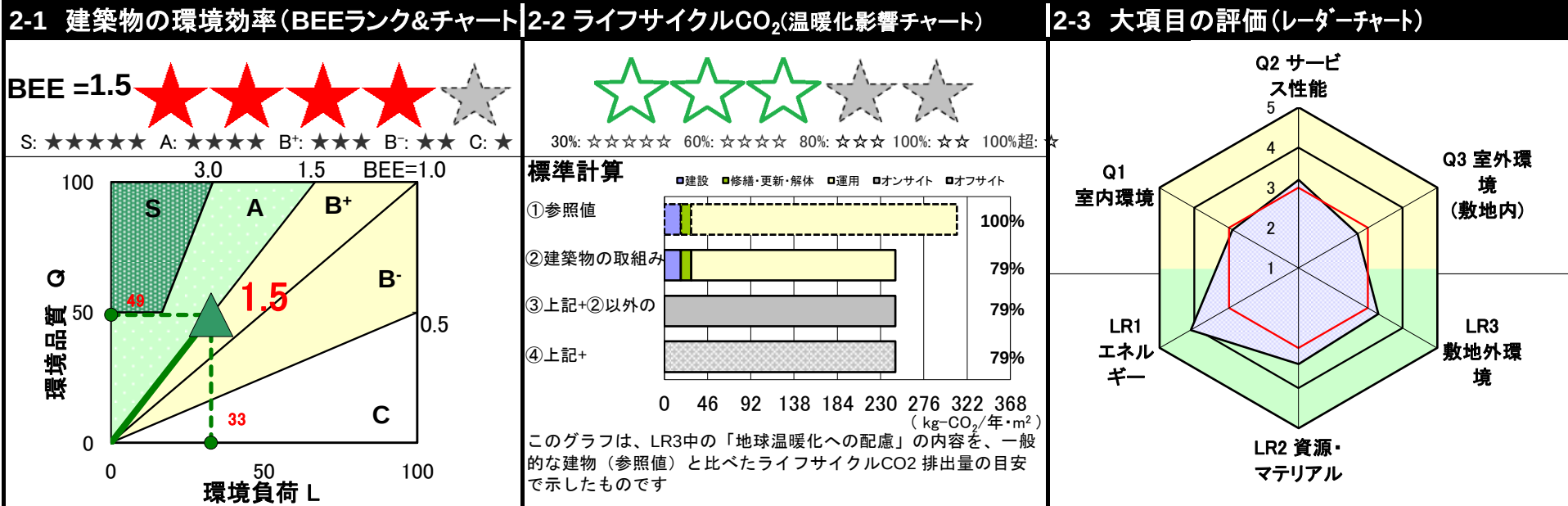
Page : 1/6

Sheet : 1/5

CASBEE®熊本《新築》評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	税大熊本研修所(28復旧)建築工事	階数	地上4階
建設地	熊本県熊本市東区東本町16-1	構造	RC造
用途地域	第二種住居専用地域	平均居住人員	100 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2017年1月27日
敷地面積	8,017 m ²	作成者	松本拓也
建築面積	1,673 m ²	確認日	2017年1月28日
延床面積	4,730 m ²	確認者	定森淳一



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版 税大熊本研修所(28復旧)建築工事			■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)						
			欄に数値またはコメントを記入						
スコアシート 実施設計段階									
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									2.9
Q1 室内環境						0.40		-	2.9
1 音環境					2.9	0.15	3.0	1.00	2.9
1.1 騒音			二重壁+グラスウール充填:Dr-45		3.0	0.47	3.0	0.50	
1.2 遮音					3.2	0.47	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能					3.0	0.87	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能					5.0	0.13	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音					1.0	0.06	3.0	-	
2 温熱環境					2.0	0.35	2.3	1.00	2.1
2.1 室温制御			等級4を満たす		1.9	0.50	2.5	0.50	
1 室温					1.0	0.55	1.0	0.63	
2 外皮性能					3.0	0.34	5.0	0.38	
3 ゾーン別制御性					3.0	0.12		-	
2.2 湿度制御					1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式					3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境					3.2	0.25	3.4	1.00	3.3
3.1 昼光利用			2階学習室2:2.96%、1階談話コーナー:6.41%、各階寮室(1):1.60%		4.2	0.30	3.5	0.30	
1 昼光率					5.0	0.60	4.0	0.50	
2 方位別開口						-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備					3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策			カーテン、庇 学習室:750lx		2.2	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御					2.2	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度					3.6	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御					3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境					3.5	0.25	3.8	1.00	3.7
4.1 発生源対策			内装材及び家具類は全て規制対象外とする		4.0	0.57	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					4.0	1.00	4.0	1.00	
2 アスベスト対策						-		-	
4.2 換気			居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している		3.0	0.37	3.6	0.38	
1 換気量					3.0	0.46	3.0	0.33	
2 自然換気性能					3.0	0.08	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.46	3.0	0.33	
4.3 運用管理					3.0	0.06		-	
1 CO ₂ の監視					-	-		-	
2 喫煙の制御					3.0	1.00		-	
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.2
1 機能性					3.4	0.40	3.0	1.00	3.2
1.1 機能性・使いやすさ			基準を満たす		3.5	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性					1.0	0.10		-	
2 高度情報通信設備対応					3.0	0.10	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画					4.0	0.79		-	
1.2 心理性・快適性					3.7	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観			学習室天井高:2.8m、窓設置		4.0	0.10	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース			リフレッシュスペース(ラウンジ)+自販機・ウォータークーラー設置		5.0	0.10		-	
3 内装計画			コンセプトシート、内観パース作成		3.6	0.79	3.0	0.50	
1.3 維持管理					3.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計					3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50		-	
3 衛生管理業務						-		-	
2 耐用性・信頼性					3.0	0.30		-	3.0
2.1 耐震・免震					3.0	0.50		-	
1 耐震性					3.0	0.80		-	
2 免震・制振性能					3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.2	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					2.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			床ビニル床シート20年、壁せっこうボード30年、天井せっこうボード30年		3.4	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			上位3種B以上、Eは不使用		5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.20		-	

2.4 信頼性	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
	3 対応性・更新性				3.1	0.30	3.5	
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり	管理棟階高:3.94m以上、学寮棟階高:2.90m以上	5.0	0.60	4.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	管理棟:0.38、学寮棟住宅部:0.23	3.0	0.40	4.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり			3.0	0.09	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.81	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1	
1 建物外皮の熱負荷抑制			高性能断熱材、複層ガラスの採用	4.6	0.20	-	-	4.6
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 0.75 住宅(専有部) 0.90	4.6	0.50	-	-	4.6
集合住宅以外の評価(3a.3b)			LED照明等の高効率設備機器の採用	4.0	0.31	-	-	
集合住宅の評価(3c)			LED照明等の高効率設備機器の採用	4.9	0.69	-	-	
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	0.31	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				3.0	0.69	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4	
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			自動水栓に加え、節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			陶磁器質タイル、ビニル床シート、ビニル床タイル、再生骨材の路盤材	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			学習室:OAフロア・可動間仕切り	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			防水工事のプライマー	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.70	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			断熱材はグリーン購入法品を採用	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3	
1 地球温暖化への配慮			LCCO2排出率=79%	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2 污水处理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音				3.0	1.00	-	-	
2 振動				-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策ガイドラインのチェックリスト過半を満たす、広告物照明無し	5.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・施設機能及び、周辺環境に配慮した施設づくりを行っている。

Q1 室内環境

- ・高い界壁遮音を確保している。・等級4を取得する等、高い外皮性能を確保している。・昼光率を確保している。・照度を確保している。・規制対象外品を採用等、空気質環境に配慮している。・自然換気性能に確保に努めている。

Q2 サービス性能

- ・バリアフリー新法の基準を満たしている。・リフレッシュスペースを確保している。・コンセプトシート、内観パース作成等、内装計画への取り組みを行っている。・耐用年数の長い、内装材、給排水管を採用している。・階高、壁長さ比率を確保し、空間のゆとりに配慮している。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・10%以上の外構緑化を行っている。
- ・保水性舗装材を活用している。

LR1 エネルギー

- ・高性能断熱材、複層ガラスの採用等、建物の熱負荷抑制に配慮している。
- ・LED照明等の高効率設備機器を採用し、設備システムの高効率化に努めている。

LR2 資源・マテリアル

- ・自動水栓に加え、節水型便器を採用している。・リサイクル材の活用に努めている。・再利用できるユニット部材を活用している。・防水工事のプライマー等、科学物質の使用削減に努めている。・断熱材はグリーン購入法品を採用している。

LR3 敷地外環境

- ・省エネルギー効率を高め、LCCO2排出率に配慮している。
- ・光害対策ガイドラインのチェックリスト過半を満たす、広告物照明の設置無し等、光害の抑制に配慮している。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 税大熊本研修所(28復旧)建築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		84
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				91.7	0.40	36.68
Q1-2.1.2	外皮性能	4.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.1	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.6	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.6	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				77.5	0.20	15.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				86.2	0.20	17.24
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数